

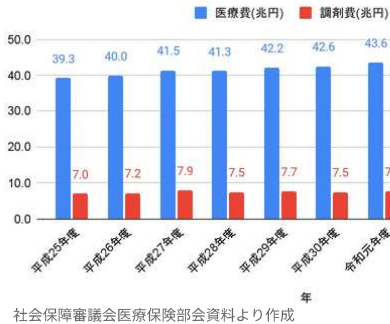


残薬問題の解消

宮城県仙台第三高等学校 9班

1. 背景と目的

医療費と調剤費の推移



高齢化、医療の高度化

→ 医療費の増加

→ 医療費削減のためには無駄を省く必要がある

・残薬...処方薬のうち、飲み残しや自己判断での中止によって余らせてしまった薬のこと。日本薬剤師会の調査によると75歳以上の高齢者の年間残薬費は475億円にも及ぶとされている¹。

本探究では残薬の解消を目指す

まとめ・結論

残薬問題の解消には患者と医師、薬剤師のコミュニケーションが必要不可欠！

↓ 残薬バッグがきっかけになるのでは？

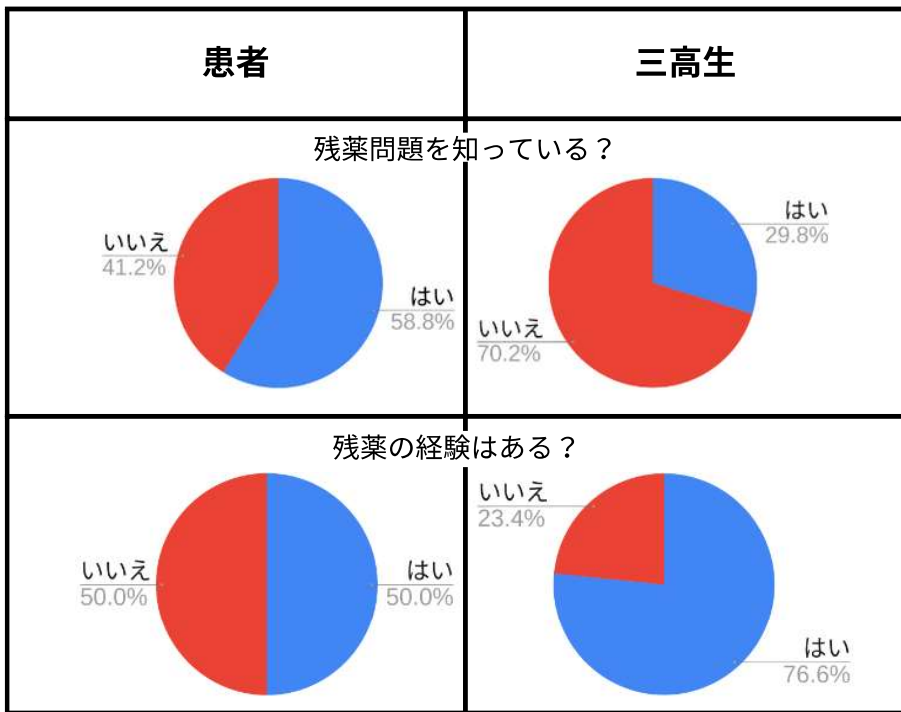
残薬の広報を通して薬の適切な使用の呼びかけなど、薬剤全体の問題の解消に動いていたら良いと感じた。

薬剤師さんや行政の方との対話を通じて消費者と提供する側では認識に差があるように感じたので橋渡しのような活動ができれば良かった。実際に残薬に困っている人へのインタビューなどもできればより実用的な案が出せたのではないだろうか。

2. 残薬問題の主な原因

- ・余剰処方
- ・医療費の負担軽減
- ↓ 簡単な受診で薬剤の価値軽んじられる → 安易な自己判断での中止も
- ・残薬の周知不足
- ・病院のコミュニティ化

3. 残薬問題の現状と課題



仙台三高周辺の調剤薬局、全校classroomにて調査
調剤薬局(有効回答71件)三高生徒(有効回答47件)

禁止されていること

- ・第三者へ譲ること (薬機法)
- ・処方薬の返品不可

素人判断では使用期限切れや副作用も！

現状の取り組み



お薬手帳

ブラウンバッグ運動



ジェネリック医薬品
(薬剤費減)

自分で処方された薬を使う

残薬問題やブラウンバッグ運動を広めるためには？

→ 行政と協力し、自治体主導のブラウンバッグ運動
仙台市保健所健康安全医務薬務係へ

ブラウンバッグ運動とは？

ブラウンバッグに自宅にある
残薬を入れて調剤薬局へ

↓
薬剤師が残薬調整
↓
無駄な処方を減らす

4. 仙台市保健所健康安全医務薬務係へ

医療費適正化計画²

- ・住民の生活の質の維持及び向上を図るものであること
- ・超高齢社会の到来に対応するものであること
- ・目標及び施策の達成状況等の評価を適切に行うものであること

EX)

- ・岡山県 → 残薬バッグ
- ・福島県 → 残薬整理事業



宮城県では.....総合的な取り組み！残薬の**予防**

- ・仙台健康サポート薬局 → 患者になる前から

健康サポート薬局³とは.....

厚生労働大臣定める一定水準を満たした薬局

- ↓ ・かかりつけ薬剤師、薬局
- ・市販薬や健康食品の相談
- ・介護や食事、栄養摂取に関することの相談



・MMWIN⁴

Miyagi Medical and Welfare Information Network

みやぎ 医療 福祉 情報 ネットワーク



- ・多くの病院、診療所、調剤薬局、介護施設が参加。
- ・宮城県内のMMWIN参加施設の医療及び介護情報を保存、参加施設間で共有可能な医療福祉情報ICTネットワーク

残薬調整や残薬の相談は患者と薬剤師の信頼関係が大切
→ かかりつけ薬剤師の広報が必要

おくすり手帳と残薬や県の取り組みについての 認知度の差は何なのか

- ・自分事という意識の少なさ
- ・広報が足りていない
- ・利点が伝わっていない



多くの人が目にする場所を利用する → 駅など(仙台市と協力)
教育の場での指導(薬物乱用防止教室など)

参考文献

- 1) 日本薬剤師会 「後期高齢者の服薬における問題と薬剤師の在宅患者訪問薬剤管理指導ならびに居宅療養管理指導の効果に関する調査研究」の報告書
- 2) 厚生労働省 第四期医療費適正化計画(2024~2029年度)について
- 3) 日本薬剤師会 健康サポート薬局とは？
- 4) みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会 MMWIN